



今月のミニ展示コーナー 解説シート

【展示のテーマ】はじまりの古墳と土器

埋文講座第 7 回のテーマ「邪馬台国時代と古墳のはじまり」に関連する長^{ちようべいだい}平^{へい}台^{だい}遺跡と
おだっぺ
小田部墳丘墓の資料をピックアップしました。

【長平^{ちようべいだい}台^{だい}遺跡 288・289 号墓】国分寺台地区の西側縁辺部で調査された、弥生時代終末期（2～3 世紀）の墳墓です。288 号墓が墳丘一辺約 16m、289 号墓が約 7m の方形墓で、周溝の一角が陸橋状に掘り残されています。289 号墓は、288 号墓築造後、その東側周溝を借りるかたちで築かれています。288 号墓では、残存高約 1m の墳丘盛土の上面から掘り込まれた墓壇の中から鉄製の短剣と 17 点のガラス玉が出土しました。289 号墓は埋葬施設が残っておらず、副葬品も不明です。288 号墓の周溝からは、在地の土器と伊勢湾地域の特徴を持つ土器、そして両者の中間的な様相の土器がまとまって発見されています。高杯に注目すると、同じ遺構にも関わらず、東海系、在地系、折衷系と変化に富んでいることがわかります。白い胎土と赤い装飾が目立つパレススタイル土器は、製作技法とデザインもまったく地元とは異質なもので、伊勢湾地域など遠方からもたらされたものです。288・289 号墓出土土器は向かい側ケースにも展示していますので、合わせてご覧ください。

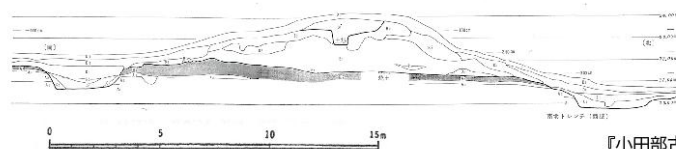
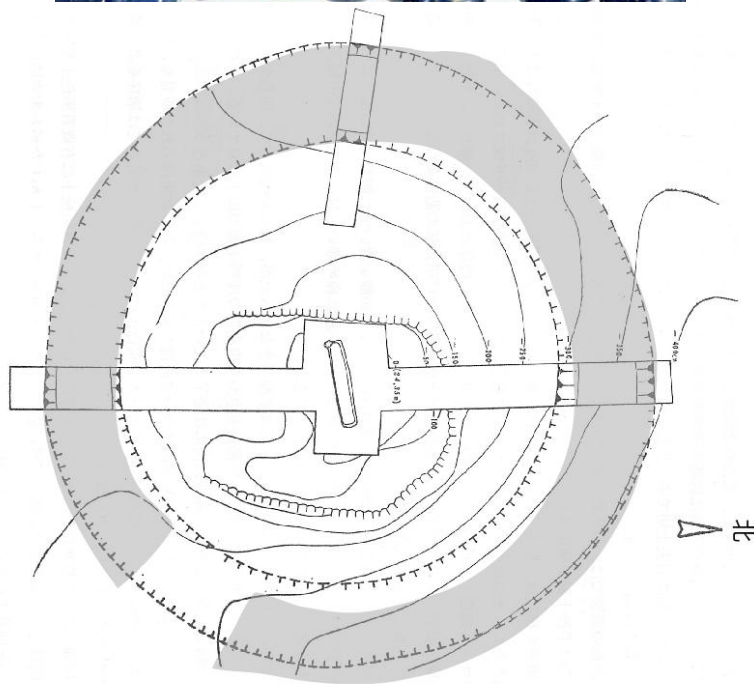


長平^{ちようべいだい}台^{だい}遺跡 288 号墓周溝出土土器



【小田部墳丘墓】村田川水系をさかのぼった台地の上に築かれた全長約 24m の突出部付の円形墳墓です。1968 年に早稲田大学考古学研究室によって墳丘の調査が行われ、古式の円形墳墓であることが明らかになりました。2.4m 程度遺存していた墳丘の上面に、木棺痕跡が検出され、副葬品としてガラス玉（小玉 218 個以上・丸玉 64 個以上）・石製管玉 3 個が出土しました。墳丘上面から複数出土した高杯は、滋賀県北東部の伊吹山麓地域から美濃西部地域に目立つ、特徴的な文様が施されています。

展示品は旧県立上総博物館から、最近になって里帰りしたものです。



『小田部古墳の調査』より

